

2013年3月14日

研究支援センター

2013年度研究助成制度 審査結果について（報告）

1. Smart and Human

(1) 採択一覧表

	研究課題	学部	申請者	共同研究者	助成金額
1	地域資源にもとづく持続的 社会的形成～すさみ町総合研究～ フェーズⅡ	外国語	浅野 英一	八木 紀一郎、橋本 正治、 池田 博一、一色 美博、 内田 勝巳、牧野 邦昭、 田中 鮎夢、他学生	900,000
2	看工融合による腰痛 予防スマートシステムの 開発	理工	川野 常夫	奥野 竜平、横田 祥、 福井 裕、村松 十和、 小崎 篤志、他学生	900,000
3	パワー系アスリートの 競技力向上を目指したテーラー メイド支援法の確立	スポ振	藤林 真美	奥野 竜平、内部 昭彦、 河瀬 泰治、古野 幸子、 船越 英資	800,000
4	社会変動とエートスの 関わりについての研究－ 3.11 後の日本社会－	外国語	石崎 嘉彦	佐藤 正志、牧野 邦昭	400,000
5	神経難病患者の「痛み」 に対する神経内科病棟看護師 のケアの現状と困難に関する 研究	看護	森谷 利香	山本 裕子、宮本 勝一	200,000

(2) 講 評

Smart and Human 研究助成については、申請代表者から 13 件の応募がありました。審査の第 1 段階は審査員全員 5 点満点で評価し、第 2 段階はその高評価を中心に協議しました。審査は、Smart and Human の精神を理解しているかを基に選考しました。

つぎにそれぞれの研究課題のコメントを付します。

1. 地域資源にもとづく持続的社会的形成～すさみ町総合研究～ フェーズⅡ

1 年目の研究成果を踏まえて、研究の展開、実現可能性の確認により USR（大学の知的社会貢献）の活動に期待したい。

2. 看工融合による腰痛予防スマートシステムの開発

高齢化社会においてますます社会のニーズも増える分野であり、機器システムを開発する理工学部と、介護従事者を被験者とできる看護学部との共同研究であるから、実用性と将来展望が高いことが期待される。

3. パワー系アスリートの競技力向上を目指したテーラーメイド支援法の確立

学生アスリートを対象とした研究であり、実用性も高く、研究成果の貢献度・重要性は高い。ただし、医療研究倫理委員会の審査と承認を得るものとする。

4. 社会変動とエートスの関わりについての研究 —3.11 後の日本社会—

エートス（社会集団・民族を支配する倫理的な心的態度）が変容しつつある現在、専門分野が違う 3 人が学術的に研究を進めることによる共同論文に期待したい。

5. 神経難病患者の「痛み」に対する神経内科病棟看護師のケアの現状と困難に関する研究

神経難病患者の「痛み」に対するケアや困難について明らかにし、苦痛の少ない充実した在宅療養への提案をしていただきたい。

2. 若手育成

(1) 採択一覧表

	研究課題	学部	申請者	助成金額
1	トマトとシュドモナス細菌の共生による鉄吸収の促進	理工	長田 武	500,000
2	MATE 型輸送体の生体内分布と生理機能の解析	薬	合田 光寛	500,000
3	芽胞形成細菌による難分解性抗菌薬分解システム開発のための基礎研究	薬	桑名 利津子	400,000
4	分子標的への必須微量元素送達システムとしての有機-無機ハイブリット分子の活用	薬	木村 朋紀	400,000

(2) 講評

若手育成研究助成については、理工学部 2 件、薬学部 13 件、その他 1 件の合計 16 件応募がありました。協議の結果、600,000 円 3 件の予定でしたが、応募件数を考慮の結果、採択者数を増やすことで合意し、上表のとおりとしました。

以 上